

千葉国際芸術祭 2025 のプレ企画「まちばのまちばり」を開催します
～自由な発想で工作のような服づくりワークショップ～

千葉市では、令和7年度に開催予定の千葉国際芸術祭 2025 に向けて、プレ企画「まちばのまちばり」を開催しますので、お知らせします。

1 概要**(1) イベント名称**

「まちばのまちばり」

(2) イベント概要

自由な発想で工作のような服づくりに取り組むワークショップです。各回異なる「～の人」をテーマに、音が鳴る服をつくったり、破れた形を活かしてリメイクしたり、生き物の身体をヒントにデザインするなど、ユニークな服づくりに挑戦します。

ミシンやハサミはもちろん、会場にある珍しい道具やマシーンもつかって、「切る」「貼る」「つなげる」といったまち針で仮留めしたような工作的な手法を学びます。

(3) 開催日程（計5回開催）

	日時	テーマ	内容
第1回	2月1日(土) 13:00～16:00	引き算の人/ パッチワーク の人	服から生地を切り抜いて、穴あきをデザインの手法にしながら、服の軽量化を試みよう。また、切り抜いた生地をつなぎ合わせて、パッチワークの服をつくってみよう。
第2回	2月2日(日) 11:00～16:00	ちばしの人	みんなでまちを散策して「まちの形」を発見し、その形を縫ったりプリントして、まちを表現してみよう。また、千葉市の紋章も分解して「形」として利用してみよう。
第3回	2月9日(日) 13:00～16:00	音の人	楽器としての服をつくってみよう。それを身につけてみんなで合奏してみよう。
第4回	2月15日(土) 13:00～16:00	かさぶたの人	切られた服を土台に、傷ついたあるいはなくなった部分を自由な想像力で再生してみよう。
第5回	2月16日(日) 13:00～16:00	のりしろの人	自分の服に、他者を迎え入れるための、関わりしろを生やしてみよう。新しい生き物になったつもりで、恐竜の背びれや、猿の尻尾、羽衣や翼などを参考に、自分ならではの関わりしろの形を考えてみよう。

(4) 会場
西千葉工作室（稲毛区緑町2-16-3 萩原ビル1階）

(5) 講師
にしお よしなり
西尾 美也 氏（アーティスト）

(6) 参加対象者
小学3年生以上の方

(7) 定員
各回10人 ※事前募集済み。参加者以外の観覧はできません。

(8) 協力
株式会社マイキー

(9) 千葉国際芸術祭 2025 公式ティザーサイト
【URL】 <https://artstriennale.city.chiba.jp/news/6762b52fb45e36d9f5e25ca6/>

(10) その他
ワークショップで作成された作品の一部は、3月上旬に展示予定です。
詳細については後日、改めてご案内します。



Photo by Yukiko Kikuchi
イベントイメージ



2 取材について

- (1) 会場等の都合上、現地取材は第3回開催から可能です。
- (2) 現地取材を希望される場合は、開催日の3日前までに文化振興課（電話245-5261）までご連絡ください。また、取材の際は、貴社腕章を着用してください。
- (3) 第1、2回開催時の写真について、後日提供が可能です。写真の提供を希望される方は文化振興課までご連絡ください。

<参考>

1 千葉国際芸術祭とは

千葉市では、市制100周年記念事業の一つとして、また、文化プログラムとして令和3年度に「千の葉の芸術祭」を開催しました。

芸術祭を一過性の取り組みで終わらせず、継続して開催することで、本市の文化芸術の振興に大きな役割を果たすことができると考え、芸術祭の定期的な開催に向けて、「千葉市芸術祭基本構想」を策定し、令和7年度に「千葉国際芸術祭 2025」として開催を予定しています。

なお、令和7年度以降も、本芸術祭を定期開催していくことで、本市の魅力を国内外問わず広く発信して文化芸術による多様な交流を生み出し、文化芸術にあふれた創造性豊かな街となることを目指します。

2 講師プロフィール

西尾 美也（にしお よしなり）氏

1982年、奈良県生まれ。東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授。

文化庁芸術家在外研修員（ケニア共和国ナイロビ）などを経て、装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目したプロジェクトを国内外で展開。

「六本木アートナイト 2014」ではテーマプロジェクトを手がけ、六本木ヒルズ、東京ミッドタウン、国立新美術館の3カ所で古着を再利用した大規模な作品を発表した。

ファッションブランド「NISHINARI YOSHIO」を手がける。



Photo by Natsumi Kinugasa
西尾 美也氏